



「高度冷間圧造技術」により低コストの新工法を開発

大洋ナット工業株式会社 奈良県生駒郡斑鳩町

製品を生み出すものづくりの現場において「ハート&クオリティ」という人のぬくもりをコンセプトに新しい発想と情熱で、絶えず高品質な製品を追求する大洋ナット工業株式会社。

同社は、時代の先を見つめ、市場のニーズを的確にとらえ、冷間圧造技術を高度化した高効率な新工法を開発。さらに積極的に最新の生産ラインを導入し、ナットという製品分野で可能な限り「ユーザーのハートとふれあい100%の満足と信頼を得る」を品質方針とし、独自のものづくり技術の開発を探求し続け、常にナットの明日を考えるメーカーである。

会社概要



会社名：大洋ナット工業株式会社
所在地：奈良県生駒郡斑鳩町幸前
2丁目6番12号
電話：0745-74-0771
FAX：0745-74-4745
創業：1951（昭和26）年3月
設立：1955（昭和30）年4月
代表者：代表取締役 池田 栄治
資本金：3,625万円
従業員：82名
事業内容：ボルト・ナット等の製造・販売
URL：<http://www.taiyo-nt.com/>

多種多様な締結用部品のナットを製造

昭和26年創業以来、「喜びの創造」を社是とし、冷間圧造・自動ねじり加工による締結用部品を製造・販売する大洋ナット工業株式会社。締結用部品は、ボルト・ナット、小ねじ、タッピンねじなど、ねじ山が施されたねじ部品の総称で、同社は締結用部品のなかで、ナットを中心に製造するメーカーである。

最新の生産ラインを駆使して生産する同社の製品群は、規格品がわずか5%に対し、残りの95%は、顧客の目的に応じたデザインと機能を持つ受注生産品である。



ボルト・ナットなど同社の主な製品

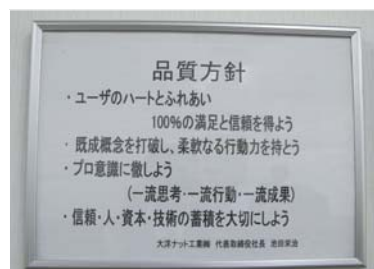
厳しい品質管理により製品を提供

同社の製品は、80%が自動車部品向けで、小ロットから量産品まで対応しており、特に同社のナットは、自動車の心臓部であるエンジン部分に多く使用されている。他にも建設、家電など幅広く産業分野に提供している。

これらの製品は、同社の厳しい品質管理による



大洋ナット工業株式会社の大和郡山第二工場



高品質な製品を支える同社の品質方針

チェック体制により産み出されるが、この体制を支えるのが、2001年に自動車用留め金具で認証取得した「ISO9002」並びに「QS-9000」、またその他産業用留め金具で認証取得した「ISO9002」である。この品質管理の徹底により同社の製品は、国内だけでなく海外からも厚い信頼を得ている。

冷間圧造技術を高度化した新しい工法

同社は、冷間圧造技術を高度化し、生産工程を簡略化するなど大幅なコストダウンを実現する高効率な新工法を開発した。

新工法が開発される前は、自動車の座席や窓に使用されている小型モーターのシャフト等は、一般的に棒鋼から切削、機械加工により製造されていた。しかし、従来の工法では、材料の歩留まりが悪く、また生産性もあまり良くなかった。

そこで、同社は、冷間圧造技術を高度化することにより金属を削らず、また熱を加えずに、金属の素材を複雑な形状の部品に成型できる加工方法をあみ出した。



高度冷間圧造技術により各工程で加工された小型モーターのシャフト

この金属を削らない工法により「生産工程の簡略化」「材料の歩留まり率の向上」「削り屑などの廃棄物の大幅な削減」など、環境に優しい高効率な生産ラインを実現した。またこの新工法は、切削ナットからパーツまで、多彩な分野の顧客の要望を、的確に満たす製品を造り出すことが可能となった。

この他、50台の冷間圧造技術に基づくパーツやナットホルマー（生産設備）も充実しており、複雑な形状の製品を圧造することも可能である。同社は、小ロットから量産品まで約400アイテムを製造し、顧客ニーズを満足させている。

また建築業界での免震構造の分野にも同社の技術が採用されている。

人の心のぬくもりが生きる「ハート&クオリティ」

池田社長は「企業の経営資源として人、情報、技術があるが、我々は、人を一番大切にする会社でありたい。情報も技術も、人が毎日いい気分で暮らすために使うものだ。従業員の暮らしと心を満たしつつ、我々の製品が、もっと大勢の人々の暮らしに幸せを感じてもらえる、そんな企業であり続けたい。そのためにも、製品にも、その製品を生み出す仕事場の環境にも、人の心のぬくもりが生きる『ハート&クオリティ』を大切にしたい」と語る。



5Sが徹底している同社工場の製造現場風景

また「従業員が、ものを造るのに苦しみを感ずるようではダメで、造ることの喜びを感じるようにならないといけない。社是である『喜びの創造』には、『誰もが、毎日いい気分で、カッコよく、キレイにカイツキに暮らす』という“3つのK”に私のものづくりに対する思いと会社のあるべき姿を込めてある」と満面に笑みをたたえながら熱く語る池田社長。

デジタル化が進み世界中の技術が平準化しつつある今、自動車関連部品のナットとパーツを中心に、基盤技術である冷間圧造技術をさらに高度化し、新たな発想と情熱で独自のものづくりを模索し続ける同社の取組みを、今後も注目したい。

（橋本公秀、太田宜志）